

日本の植生

中村 徹

概要

広大なロシアに比べて、日本の面積はわずかに約38万平方キロ、ほぼ42分の1しかありません。緯度を見ても、ロシアが北緯41°12′～81°50′もあるのに、日本は北緯20°25′～45°31′と半分ほどの短さです。しかし、植生の多様性に関しては、日本もロシアには負けていません。それは日本が大陸東側の湿潤な気候帯にあることと、亜寒帯・冷温帯のみならず暖温帯～亜熱帯にかかる温暖な気候帯にも属していることによります。

そこで今回は、おもにロシアでは見られない日本の温暖な気候下の植生についてお話しします。

ロシアでは冷温帯～亜寒帯・寒帯の植生が見られます。日本では東ロシアとの共通種を数多く含んだ冷温帯・亜寒帯の植生だけでなく、暖温帯・亜熱帯の常緑広葉樹林を主体とした森林が成立します。日本列島はアジア大陸の東側にあり、四つの比較的大きな島とそれ以外の小さな数多くの島から成り立っています。一番大きな島（本州）の南半分以南は暖温帯～亜熱帯に属し、常緑林が成立しています。

これら常緑広葉樹林は、上層で優占する林冠木だけでなく、亜高木、低木、林床の草本植物すべてが常緑の種であることもあり、中国南部や台湾など東南アジアとの共通種も多く含まれています。おもな林冠構成種は、スダジイやシラカシ・アラカシなどのシイ・カシ類、タブノキ・クスノキ等のクスノキ科、それにイスノキ、マテバシイなどで、いずれも20m～30mに達する高木です。亜高木にはヤブツバキやヤブニッケイ、シロダモ、ヒメツバキ、ヤマモモ、モッコク、クロバイなどが見られます。さらに低木にはヒサカキ、ハマビワ、イヌビワ、ヒイラギ、アオキなどの常緑広葉樹が多く生育しています。林床には、ジュズネノキ、イズセンリョウ、フウトウカズラ、コショウノキ、それに多くのシダ植物などの常緑種が生育しています。

日本の最南部、沖縄や小笠原諸島には亜熱帯林が分布し、亜熱帯特有の木生シダやヤシ類などを含んだ森林が見られます。そして河口付近にはマングローブが分布します。

これらの日本の植生について写真を交えながら解説します。